



色づく里 豊穣の秋

天竜川の朝霧、たわわに実つたりんごや柿、山を染める錦の絨毯……。麻績の里はいま、山里が美しく色づき、実りの季節を迎えています。10月にこの地方を台風が直撃し、結実した果樹が風で落々下する甚大な被害が出ました。今年は春の「霜害」、夏の「長雨」、秋の「台風」と、まさにトリプルパンチに見まわれた年でした。それでも農家の人はがんばり、秋の恵みに元気を取り戻し、田んぼは刈り取りを終えました。果樹地帯はりんごや柿が収穫期を迎え、日の光に輝いています。遠く南アルプスに目をやれば、いつもより早い初冠雪が。そしてふもとの山は紅葉の真っ盛り。赤、黄、朱……と多彩に、艶やかに装っています。

麻績の里 座光寺便創刊号

平成21年11月発行 ■ 麻績の里ふるさと応援俱楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内) 長野県飯田市座光寺25535 TEL 0265-22-1401

今年も大盛況

秋の風物詩、元善光寺の菊人形飾り展が、今月15日まで1カ月にわたり開催されました。門前町の発展を願い大正14年(1925)に始まったこの伝統行事には、期間中2万人近く人が訪れます。小菊をまとった人形は今まで地域の人々の手で作られています。

今年で5回目を迎える除夜の竹宵。今年も麻績神社参道から境内に、千本以上の竹ぼんぼりを並べます。竹筒に火を灯し、除夜の鐘の音を聞きながら新しい年の幸せを願います。地元で生まれた行事ですが年々盛り上がりを見せ、元善光寺の二年

参りとともに親しまれています。

あとがき

ふるさと座光寺会のみなさんをはじめ、座光寺を心のふるさとと思ってくださるみなさんに「麻績の里 座光寺便」をお送りすることになりました。リーフレットのコンセプトは紙上ふるさと紀行(ー)。座光寺の四季や住民の暮らしの様子を、飾ることなくお知らせします。紙面から「ふるさと」を少しでも感じていただければ幸いです。

私たちが期待するのは、みなさんとの出会いがやがて息の長い交流に発展すること。当紙がその仲立ちになれるよう、紙面の充実にがんばってまいります。ご意見ご感想などお気軽にお寄せください。



麻績の里ふるさと応援俱楽部では、本紙の情報や座光寺地域の情報をホームページ上で発信しています。

これらは携帯でも見ることができますので、下のQRコードを読み取り、メールマガジンの登録を行ってください。登録していただいた方には、定期的に情報が携帯電話に発信されます。



いますぐ
このQRコードを
読み取って
メールマガジン登録!!



麻績樂農隊の面々



体験農業の指導風景

「ふるさとパック」を ご存知ですか。



「ふるさとパック」は旬の座光寺農産物の詰め合わせ。ふるさとを離れて暮らす方に、自然の香りや懐かしい味をお届けしています。ぜひ一度ご注文ください。

ふるさとパック 秋 ◆2,000円(送料別)

(農産物詰め合わせ・何が入っているかは届いてからのお楽しみ!)

お申し込み先

麻績の里ふるさと応援俱楽部(本紙の最後をごらんください)

お申し込み締切

平成21年11月30日

お届け時期

平成21年12月始め



ふるさとパックイメージ

■精米 3kg 1,400円(送料別)

川霧米

かわぎりまい

お日さまと清流の贈りもの

川霧米は麻績樂農隊がつくる座光寺のご当地米。こんこんと湧き出る清水と天竜川の川霧、そして隊員たちの愛情が育てたお米(コシヒカリ)です。安全安心にこだわり、農薬を極力減らし、その分手間をふんだんにかけました。ぜひ一度ご賞味ください。お問い合わせは麻績の里ふるさと応援俱楽部事務局(本紙の最後に記載)まで。

農の楽しさを伝えたい 麻績樂農隊

【おみらくのうたい】

少子高齢化が進み、農業の担い手が少なくなってきた。南信州地域にも、耕作する人のいない田んぼがあちこちで目にできます。

「麻績樂農隊」は故郷の農と景観を守るために、休耕田を借りて、米づくりを進めます。地元有志による地域づくり団体です。活動は休耕田を利用した米づくり、都市中学生の体験農業受け入れ、指導、地域ブランド米「川霧米」の企画販売など。環境に優しい農業の実践が認められ、長野県の「エコファーマー」に認定されています。

隊員数は現在19名。食と農の魅力を多くの人に伝えたこと、がんばっています。

農の楽しさを伝えたい



収穫間近なりんご(11月上旬)



柿と南アルプス(10月下旬)

果樹栽培は景観づくりという大切な役割も担っている
(4月下旬 座光寺・耕雲寺下から)

果物の里 座光寺

座光寺は飯田市果樹生産量の約4割を占める、南信州地域を代表する果樹地帯です。段丘の中段から上段にかけて、古くから桃、梨、りんごなどが栽培されました。

品質も最高級。その理由を挙げてみましょう。

段丘地形は標高により気温や自然条件が変わります。さまざまな果物が栽培でき、同じ果

物でも早生種から晩生種まで、多くの品種が栽培可能です。さらには段丘に広がる果樹園は日々の良い東向き。昼と夜の気温差(日较差)が大きく、天竜川から昇る朝霧などの自然条件に恵まれ、高い糖度が生まれます。そして欠かせないのが、信州人特有のまじめでコツコツ研究熱心な気質。おいしい果物をつくるには、「にも」「にも」づくり(根気、やる気)なのです。